



Title	マニ教資料翻訳集成 (2) : ケルン・マニ・コーデックス (承前)
Author(s)	戸田, 聡
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 156: 61 (左) -73 (左)
Issue Date	2019-01-11
DOI	10.14943/bgsl.156.l61
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/72452
Type	bulletin (article)
File Information	156_03_toda.pdf



[Instructions for use](#)

ケルン・マニ・コーデックス (承前)

戸 田 聡

略号・記号一覧 (再掲)

- ・ HENRICHS & KOENEN (1970) = A. HENRICHS & L. KOENEN, “Ein griechischer Mani-Codex (P.Colon. inv. nr. 4780; vgl. Tafeln IV-VI)”, *Zeitschrift für Papyrologie und Epigraphik* 5 (1970), pp. 97-216
- ・ KOENEN & RÖMER (1988) = L. KOENEN & C. RÖMER (eds.), *Der Kölner Mani-Kodex. Über das Werden seines Leibes*. Kritische Edition aufgrund der von A. Henrichs und L. Koenen besorgten Erstedition (Papyrologica Coloniensia, 14), Opladen: Westdeutscher Verlag, 1988
- ・ 「|」または「(○行目)」は行の変わり目を示す。但し、日本語とギリシア語の語順の違い等々のゆえに、つねに行の変わり目が表示できるわけでは必ずしもなく、むしろ表示できないケースのほうが多い。
- ・ 訳文中、() (上に記した(○行目)のケースを除く)は校訂本文に見られる校訂者註を訳した部分を示す。
- ・ [] は訳者(戸田)による補いを示す。

なお校訂本文には、読みの不確かな部分を示す記号や校訂者による補いなど、この種の出土資料の校訂の際によく見られる多数の補助記号等が付されているが、これら補助記号等を以下の訳文でそのまま再現することは、日本語とギリシア語の間の様々な違いのゆえに事実上不可能であり、かつ煩瑣極まると言わざるをえない。よって、以下の訳文ではそれら補助記号等は、上記凡例で記したものを除いて一切省略し、校訂版で本文として印刷されている10.14943/bgsl.156.l61

るものの最大限、つまり校訂者による補い・推測などを含む文章、を訳出することとした。本文の読みの確かさ等々を確認したい読者は自らで校訂本文を参照されたい。(以上再掲)

教師バライエス

79 頁 (13 行目) 我が主は言った。「かの法の中で各々一人一人に対して、充分な対話が私によって行なわれた——私から始めて、私が彼らを、神の道について、そして救い主の諸々の戒めについて、そして **80 頁** (1 行目) 洗礼について、そして彼らによって洗礼を施されている野菜について、そしてあらゆる定めについて、そして彼らが歩む際の基準たる彼らの秩序について、彼らに問いただしながら。(6 行目)

「そして私が彼らの言説や奥義を破壊し無効にし、自分たちが追求しているこれらのことを (11 行目) 彼らは救い主の戒めから受け取ったのではないということを示していた時、一方で彼らのうちの幾人かは私に驚嘆し、他方で他の者たちは怒り、憤って言った、『まさか彼はギリシア人たちのほうへ行きたいのではあるまい?』。そして私は、彼らの思念を目にした時、善意を以て彼らに向かって断言した、『あなたがたが自分たちの食べ物に洗礼を施す際の手段である **81 頁** (1 行目) この洗礼は、全く目的に適っていない。というのも、このからだは汚れており、汚れの成形を基^{もと}に形づくられたからだ。(5 行目) そして見よ、人が自分の食物を清め、そして洗礼を施されたこの食物に与る時、我々に明らかなのは、その食物からは血も胆汁も息も、恥[部]の排泄物もからだの汚れも生じるのだ、ということである。(14 行目) そしてもし自分の口を、僅かな日数、この食事から控える者がいれば、(17 行目) 恥と唾棄性とのこれらすべての脱ぎ捨て物が不足してからだの中で欠如する、ということが即座に知られる。そしてもしその者がまた食物に与れば、**82 頁** (1 行目) それらはからだの中において、当の食事自体からあふれているのだということが明白となるその同様な仕方で、再び過剰になる。(6 行目) そしてもし人が、洗礼を施されて清められた食べ物に与り、そして洗礼を施されていない食物に与るなら、からだの美と力が同じであることが知ら

れる、ということは明白である。また同様にして、両者の残りかすと唾棄性とは、いかなる点でももう一方と異なっていないものとして観察されるのであり、その結果全く明らかなのは、(19行目)人が放擲し脱ぎ捨てた、洗礼を施されたかの食物が、洗礼を施されていないかの別の食物と「異なっている」ではない、ということである。

『またこのこと、すなわち **83 頁** (1行目) あなたがたが毎日水で洗礼を受けているということは、いかなる点でも成功していない。というのも、一度洗礼を受けて清められたあなたがたが、何のために再び毎日洗礼を受けるのか——(8行目)このことにおいても、あなたがたが日々「自分自身によって？」嫌われており、清められることよりむしろ唾棄性のゆえに洗礼を受けているのだ、ということが明白であるように。(14行目)そしてこのことにおいても極めて明瞭な仕方では明らかであるのは、いかなる不浄もからだに由来するのだ、ということである。そして見よ、あなた方もからだを身に帯びたのだ。(20行目)

『このゆえに、あなたがたの清さとは何なのか、あなたがたは自分自身に即して良く見よ。というのも、あなたがたの **84 頁** (1行目) からだをすっかり清めることは不可能なだから。実際、からだは日々、からだに由来する分泌(沈殿物の)のゆえに動き、また止まる——救い主の戒めから離れて「排泄などといった」当の事が行なわれる、そのごとくに。それゆえ、(10行目)語られた当の事柄である清さとは覚知による清さであり、闇からの光の分離であり、死「から」の命の「分離」であり、脅かされた「水から」の生ける水の「分離」である。そしてそれは、二つのうちの一方がお互いから「異なっている」のだということをおあなたがたが知るためであり、そしてあなたがたは、救い主があなたがたの魂を破壊と滅びから贖ってくれるよう、救い主の戒めを **85 頁** (1行目) 保持するのだ。これが、真実に従って極めてまっすぐな清さであり、あなたがたはそれを行なうことを託されたのだ。あなたがたはそれに基づいて変えられ、洗われた¹。それなのに²あなたがたは、不浄に

¹ 「(あなたがたは) 洗われた」と訳したこの単語 ἀπελοήθητε は、辞書の見出し形では

よって形づくられた極めて汚れたからだの浄化を保持〔或いは、固守?〕したのであり³、そしてそれ〔「不浄」或いは「浄化」のいずれかを指す——どちらかにはわかには決めがたい〕を通じてからだは凝固し、建て上げられて静止したのである』。(13行目)

「これらを私が彼らに語り、彼らが熱心に追求していたその当のことを破壊し無効にしたところ、一方で、彼らのうちの幾人かは私に驚嘆して私を褒めそやし、私を指導者そして教師であるかのようにみなした。他方で、かの教え〔の者たち〕⁴の中で私のゆえに多くの**86頁**（1行目）ささやきが生じた。彼らのうちの幾人かは私を預言者そして教師であるかのようにみなした。そして彼らのうちの幾人かは言った、『生ける言葉が彼の中で敬われている。(7行目)我々は彼を我々の教えの教師にしよう』。他の人々は言った、『まさか、気づかれない仕方で声が彼に語り、そして彼が明かしたまさにそのことを彼に語っている、などということではないだろう?』。そして或る人々は言った、『まさか、何か夢で彼に現れて、そして(16行目)彼は見た当のことを語っている、などということではないだろう?』。他の人々は言った、『まさか、この男は、我々の教師たちがその者について預言して「女を知らない〔若〕者が我々の中から立ち上がるだろう、そして新たな教師が〔或いは、新たな教師として〕やっ**て87頁**（1行目）来るだろう、その結果〔彼は〕、我々の祖先たる父たちが服の休息に関して語ったその仕方、我々の教え全

ἀπολούω となる語（その前綴りをとった形 λούω はもともとは λοέω であり、約音の結果 λούω となった）だが、ἀπολοέω という見出し形からの活用形であるかのごときこの ἀπελοήθητε という形は非常に珍しく、古代・中世のギリシア語の文章を網羅的に集めた巨大なコーパスとして知られる TLG (Thesaurus Linguae Graecae) の Textual Search で (ἀπελοήθη の形で) 検索した限りでは、まさにケルン・マニ・コーデックスのこの箇所しか出てこない（前綴りを除去して ἐλοήθη で検索しても結果は同じ）。

² この καὶ κατέσχετε の καὶ は、ここでは LSJ s.v. καί, II. 3. “and yet” の意味に解釈した。

³ 「(あなたがたは) 保持〔或いは固守?〕した」と訳した κατέσχετε は、ここでは κατέσχεα (κατέχω の aor. 1) の 2. pl. だと解釈した。

⁴ δόγμα を「教えの者たち」の意味に解すべき（ここではその意味以外には考えられない）このような用例は、管見の限りではギリシア語辞典類からは知られない。

体を動かすだろう」と言った、[まさに]その者ではないだろうか?』。他の人々は（7行目）言った、『まさか、彼の中で語っているのは誤謬ではないだろうか?そして彼は我々の民族を誤らせたいのか、そして教えを2つに分ちたいのか?』。彼らのうちの他の人々は（13行目）ねたみと怒りに満たされ、そのうちの幾人かは死罪を支持する考えを述べた。（16行目）他の人々は言った、『この男は我々の法の敵だ』。そして或る人々は言った、（19行目）『彼は諸国民のところへ行きたいのか、そしてギリシア人のパンを食べたいのか?』。……『というのも我々は彼が「ギリシア人のパンに与ることが**88頁**（1行目）必要だ」と言うのを聞いたのだから。また同様に、我々の父たちそして教師たちが食べないようにと退けた飲み物や食べ物や野菜や果物を、この男は、それらに与るのが順当なことだと言っている。（10行目）また同様に、我々が受けている洗礼を彼は破壊し、彼は我々のように洗礼を受けず、むしろ、自分の朝食に対してすら、彼は我々のように洗礼を施すことをしない』。

「その時（16行目）そこでシタと彼の仲間たちは、私が彼らの説得へと[寄って]来ず、むしろ少しずつ少しずつ、彼ら自身の法と、彼らが吟味の上排除した食べ物と、彼らと同様な仕方で施されない洗礼とを、破壊し**89頁**（1行目）無効にしているのを見、これらすべてのことにおいて私を彼らに反対の立場だとみなして、（5行目）その時シタと彼の仲間である長老たちの大勢とは私のゆえに集会を催した。（9行目）彼らはまた家の長パッティキオスを呼び、（11行目）彼に言った、『あなたの息子は我々から離反した、そして彼は世に行きたがっている。（15行目）そして我々は小麦のパンと果物と野菜を区別して[それらを]食わず、他方で彼はこれらに従わず、これらを動かすことが必要だと言っている。他の……彼が洗礼を受けた[のでない?]その仕方で洗礼……。彼はギリシア人のパンを**90頁**（1行目）食べたがっている』。パッティキオスは（3行目）彼らの極めて大きな叫喚を目にしたので、彼らに向かって言った、『あなたがたが彼を呼んで説得してください』。

「そして（8行目）その時彼らは私を自分たちのところに呼んで、集まって私に向かって言った、『君は若い時から我々のところに在って、我々の法の生き方及び諸秩序の中で良く過ごしてきた。君は我々の中でしとやかな花嫁の

ようだった。さて、何が君に起こり、或いは何が君に現れたのか。というのも、君は我々の法に反対し、我々の教えを破壊し無効にしているからだ。君は自分の進路を **91 頁**（1 行目）我々のから変えた。というのも、我々は君の父を極めて大きな敬意を以て遇しているのだから。そこで、さあ、何ゆえに君は、昔から我々がその中で生きているところの、我々及び父たちの法の洗礼を破壊するのか。そして君は救い主の諸々の戒めを破壊している。我々が食べない野菜や小麦のパンを、君は食べたいのだ。何ゆえに君は、我々のように地を耕すことに従わずにこのように過ごすのか』（19 行目）

「その時私は彼らに言った、|『救い主の戒めを破壊するなどということが、私に決してないように。他方、もしあなたがたが小麦のパンゆえに、**92 頁**（1 行目）私が「それを食べる必要がある」と言ったがゆえに私を非難しているのなら、これは救い主がしたことである——祝福してご自分の弟子たちに与えた時に、彼はパンを祝福し、彼らに与えた、と書かれているように [マタイ 26:26 並行]。さて、かのパンは小麦からできたものではなかったか。[救い主は]⁵ 自分が徴税人たちや偶像崇拜者たちと共に食事をした、ということを示している [マタイ 9:10-11 並行]。同様にまた（15 行目）彼はマルタとマリアの家で呼ばれた⁶。マルタが彼に「主よ、あなたにとって、私の姉妹に私を助けるようあなたが言うことが、私に関する関心事とならないのですか」と言った時に、救い主は彼女に向かって言った、「マリアは良い分を **93 頁**（1 行目）選んだ、そしてそれは彼女から取り去られないだろう」[ルカ 10:38-42]。（3 行目）

⁵ KOENEN & RÖMER (1988), p. 65 のドイツ語対訳ではここで「Die Bibel」と主語を補っているが、果たしてマニがキリスト教の聖書に触れたかどうか、たまたもし触れたとしてどういふ聖書に触れたか（言うまでもないが、マニが生きた3世紀には正典としての新約聖書はまだ成立していなかった）、といったこと自体が大問題であるため、この補いは非常に問題的だと言わざるをえない。よって本翻訳では、少し前の文で主語として使われている「救い主」を主語として補うこととした。

⁶ この箇所の ἐκλήθηは最初の η をいわゆるイオタ化 (iotacism 或いは itacism……この場合にはどちらでも同じ) で考えれば ἐκλιθη となって「食事をした」と訳すことができる。文義的にはこちらのほうが優っているように思われる。

「『それゆえ、救い主の弟子たちもまた、女たちや偶像崇拝者たちから [もらって] パンを食べたのであり、彼らはパンをパンから区別せず、野菜を野菜から区別せず、地の耕作や仕事において働かずに、あなたがたが今日成し遂げているように食べていたのだ、ということをおあなたがたは良く見よ。（14行目）同様にまた、救い主が自分の弟子たちを各場所で宣教するよう派遣した時、彼らは石臼もパン焼きの器も自分と共に持ち運ばず、むしろ……』」。

94 頁（1 行目）

ザ……⁷

「『それゆえもし、あなたがたが洗礼について私を告発しているのなら、見よ、私は再びあなたがたの法に基づいて、またあなたがたの大いなる者たちに啓示されたことどもに基づいて、洗礼を受けることは必要でないということをおあなたがたに示す。（9 行目）

「『というのも、あなたがたの法の創始者であるアルカサイオスが示しているのだから。つまり、彼が体を洗おうとして水場に行ったところ、水の泉の中から彼に男の形が現れて、彼に向かって言ったのである、「あなたの獣たちが私を撃つことが充分ではないのか。むしろあなた自身も、私の場所を悪くあしらい、私の水に対して不敬を働いている」。その結果アルカサイオスは驚いて、その形に向かって 95 頁（1 行目）言った、「不品行や汚れや世の不浄があなたに打ちつけられ、そしてあなたは拒まず、（5 行目）他方私に対しては、あなたは痛みを感じている」。その形は彼に向かって言った、「もしこれらすべてが私が何者か、私のことを知らなかったとしても、礼拝者であり義人だと断言するあなたはなぜ、私の名誉を守らなかったのか」。そしてその時アルカサイオスは衝撃を受けて、水の中に入って体を洗わなかった。

「『そしてまた、長い時間のあと、彼は水の中に入って体を洗いたいと思ひ、

⁷ 「ザ」で始まるこの人名については、KOENEN & RÖMER (1988), p. 67 n. 1 で Zacheas, Zachias, Zaruas, Mar Zaqu, Zaku といった名が挙げられているが、もちろん特定は為されていない。

自分が体を洗うために、多くない水のある場所を見張っているようにと自分の弟子たちに命じた。彼の弟子たちはその場所を彼の 96 頁（1 行目）のために見つけた。彼が体を洗おうとしていると、（3 行目）再び 2 度目にその泉から男の形が彼に現れて、彼に言った、「我々と、海の中のそれら水とは 1 つだ。そこであなたは罪を犯すため、我々を撃つためにここにも来たのだ」。彼は非常に震え、衝撃を受け、自分の頭の上の泥が干からびるに任せ、こうしてそれを振るい落としした』。⁸（18 行目）

再び彼 [すなわちマニ] は示す、「アルカサイオスにはしまっておいた鋤があり、彼はそれのところへ行った。すると地が言葉を発して彼に言った、97 頁（1 行目）『なぜあなたがたは、私を基にして自分たちの仕事を行なうのか』。アルカサイオスは、自分に向かって語ったその地から土をつかみ、嘆いて接吻し、自分の胸元に押しつけ、語り始めた、『これは我が主の肉と血だ』[マタイ 26:26-27 並行]」。 （11 行目）

彼 [マニ] はまた言った、「アルカサイオスは、自分の弟子たちがパンを焼いているのを見いだした。その結果パンもまたアルカサイオスに向かって語った。アルカサイオスは、もはや焼かないようにと命じた」。 （18 行目）

彼 [マニ] はまた示す、「洗礼者サッバイオスは野菜を町の長老のところへ運んでいこうとした。するとその野菜は泣いており、彼に 98 頁（1 行目）言った、『あなたは義人ではないのか。清い者ではないのか。何ゆえに我々を不品行な者たちのところへ連れていくのか』。その結果サッバイオスは、自分が聞いたことのゆえに衝撃を受け、野菜を戻した」。 （9 行目）

彼 [マニ] はまた示す、「或るナツメヤシがコーケー出身の洗礼者アイアノスと語らい、我が主に語るように彼に命じた、『私の実が盗まれるゆえに私を

⁸ KOENEN & RÖMER (1988), p. 67 n. 2 によれば、文章は、これまでのところがマニを 1 人称の主語とする文章 (Ich-Form) だったのに対して、この直後からマニを 3 人称の主語とする文章 (die Er-Form) へと変わっているとのこと。この点の見究めは難しく、当然ながらこのような判断自体が、このケルン・マニ・コーデックスを資料として取り扱う際の取り扱い方に影響を及ぼすが、ここでは暫定的に校訂者たちの判断に従うこととし、よって鍵括弧をここでこのように閉じることとした。

切り倒すのでなく、今年は私を放っておいてくれ。そしてこの年に私はあなたに、これらすべての年に私から盗まれたのに見合う実をもたらそう』。そしてナツメヤシは **99 頁**（1 行目）彼 [= 「我が主」？] の実を盗んだ者に『お前はこの季節、私の実を盗みに来るな。もし来れば、私はお前を私の高みから投げ落とし、そして [その結果お前は] 死ぬ』と言うように命じた。（10 行目）

ティモテオス

「その時私 [すなわちマニ] は彼らに言った、（12 行目）『あなたがたは、これらの幻を目にしてそれらに衝撃を受けてそれらのことを他の人々に宣べ伝えたこれらの人々、あなたがたの法の著名な人々を、見るがよい。同様にまた私も、彼らから教えられた限りのすべてのことを成し **100 頁**（1 行目）遂げる』。

「私がこれらのことを彼らに言って彼らの言説を粉碎した時、直ちに彼らは皆怒りによって洪面を成し、その結果彼らのうちの或る者が立ち上がって私を撃った。彼らは皆の真ん中で私を抑え、打擲した。また彼らは、敵であるかのように私の髪の毛を掴み、悪霊を敬う者に対するかのように非常に大きな声で私に向かって叫び、苦々しい思いで私に対して怒り、そして彼ら自身のものである妬みによって私を絞殺しようとしていた。家の長パッティキオスが彼らの真ん中にいた者たちに向かって、……不敬なことをしないよう **101 頁**（1 行目）彼らに願ったゆえに、彼らは敬意を表して私を解放した。この試みが私を襲ったあと、私は一つのかたわらへと身をひそめつつわきによけ⁹、祈りのために立ち [或いは、立ち止まり]、懇願し、我が主に私を助けに

⁹ 「わきによけ」と訳したのは *ὑπαναστέλλω* という動詞だが、この動詞の用例を載せている辞書が与えている語釈はそれぞれ「rise somewhat, begin to rise(of a star)」(P.G.W. GLARE (ed.), *Greek-English Lexicon. Revised Supplement*, Oxford: Clarendon Press, 1996, p. 300b)「spring forth from below」(G.W.H. LAMPE (ed.), *A Patristic Greek Lexicon*, Oxford: Clarendon Press, 1961, p. 1433b)であり、どちらも文脈に沿うとは言いがたい (KOENEN & RÖMER (1988), p. 71 のドイツ語対訳は「ich zog mich abseits zurück」と訳している)。

来てくれるよう願った。(11 行目)

「私が祈りを終えて非常に悲しんでいると、極めて幸いなる我が相^{シュジュクス}棒——かの主にして支え手である——が真向かいに現れた。彼は私に向かって言った、『悲しむな、泣き声を上げるな』。私は(20 行目)彼に向かって言った、『どうして一体私は悲しまないだろうか。というのも、私が若い頃から育てられた時の仲間だった者たち、この教えの中の 102 頁(1 行目)人々が、私が彼ら自身の法から距離を置いたがゆえに、変じて私の敵となったのだから。さて私はどこへ行こう。というのも、すべての教えと諸々の分派とが、善に対する敵手なのだから。また私は世においてはよそ者であり、そして(10 行目)孤独な者だ。この教えの中で純潔と肉打擲と手の休息の抑止とについて良く知っている者たち[或いは、講義を受ける者たち]は、そしてさらにみな私を名前で知っており、……教え……むしろ……体の……価値……つまり、私の体の養いと 103 頁(1 行目)保育と寝かしつけとが、かの教えの中で私に対して行なわれた時、彼の[或いは、その教えの]指導者たちと長老たちとに私は、私の体の養いに従って、つながりを有していた。そこでもし、これらの人々が真理の受容のために私に居場所を与えなかったなら、どのようにして世は、或いは世の有力者たちは、或いは諸々の教えは、私を迎え入れるだろうか——語られざるこれらのことを聞き、重いものであるこれら掟を受け入れるために。どのようにして私は王たちの前で……また、104 頁(1 行目)世の、そして諸々の教えの指導者たちの……?というのも、見よ、最も大なる者たちや権威を有する者たちは、自分たちの富とやりたい放題と財産との中に在り、他方私は、(9 行目)ひとりぼっちで、これらのものを欠く貧者なのだから』。

「さてその時、極めて栄光ある者自身[すなわち相^{シュジュゴス}棒]は私に向かって言った、『この教えのためだけに君は遣わされたのではなく、いかなる民族にも、

本稿の訳では ἀναστῆλλω の通常の語釈「remove」「lay aside」に前綴り ὑπο-のニュアンスを加味して訳出してみたが、いずれにせよ、この文章がアラム語(或いはシリア語)からの翻訳であるなら、この箇所では何らかの誤訳が行なわれている可能性が高いように思われる。

教えにも、そしていかなる都市・場所にも遣わされたのだ。というのも、君によってこの希望は、すべての地方へ、世の広がりへと、宣明され宣べ伝えられるのだから。そして非常に多くの人々が、君の言葉を **105 頁** (1 行目) 受け入れるだろう。それゆえ君は進み、行き巡れ。というのも私は、私が君に啓示したすべてのことを君が語るいかなる所に於いても、同盟者・保護者として君と共に在るのだから。それゆえ悲痛な思いになるな、悲しむな』。(9 行目)

「そこで彼が私に向かって、励ましつつ、かつ彼の希望の中で一層毅然として覚悟を促す仕方で、言ったことは非常に多い。私は彼の前で跪拝し、そして私の思慮は、極めて栄光あり極めて神聖なるかの我が極めて幸いなる相 シユジュゴフス 棒のきわだった外見に喜んだ。私は彼に向かって言った、『……。 **106 頁** (1 行目) というのも、見よ、パッティキオスは老人となっており、私にたった一度起こった鬭争を見て衝撃を受けたので』。その時、彼は私に向かって言った、『進め、そして行き巡れ。というのも、見よ、2 人の男がかの法から出て、君のところに来るだろう、そして君にとって同行者となるだろう。同様にまたパッティキオスは君の選びの最初の者となり、君に随行するだろう』。(15 行目)

「そこでその時、洗礼者たちから 2 人の若者が私のもとにやって来た。彼らは私の隣人だったシユメオンそしてアビザキアスである。(20 行目) 彼らはどこへも一緒に来るべく、私のところへ来た。そして彼らは我々が行った所において私のかたわらで同労者だった。 **107 頁** (1 行目)

「そこで私は、我らの主の意志によって、かの法から出て前進した — 彼の最良の種を蒔くために、そして彼の極めて明るい灯火に火をつけるために、また、生きている魂たちを分派者たちへの服従から贖うために (12 行目)、そして世を踏みつけにして我らの主イエスの形に従って剣 [マタイ 10 : 34] と分裂 [ルカ 12 : 51] と霊の剣 [エフェソ 6 : 17] とを地の上に投げるために (18 行目)、我が民の上に穀物を滴らせる [出エジプト 16 : 4] ため、そして (20 行目) 世において測り知れない恥辱に打ち勝つため、そして……。 **108 頁** (1 行目) 私は、狼の姿に対峙する羊であるかのごとくに [マタイ 10 : 16 並

行] 異国と異郷に来た。それは、私によって分かたれて、忠信な者たちが不信心な者たちの中から選び出されるためであり、最良の穀物が毒麦の中から選び出されるためであり [マタイ 13:25 並行], 王国の子ら [マタイ 13:38] が敵の子らの中から選びだされるためであり、高みの子孫たちが深みの産物たちの中から選び出されるためであり、それは、私によって彼¹⁰が、家に属する諸々の物を家に属さない諸々の物と分け隔てるためである。(17行目)

「そこでその時、極めて幸いなる我が父の御意に従って、私は世の行き巡りへと遣わされた。それは、被造物が私において聖化されるためであり、私によって父が、諸々の教えや諸々の種族の只中で、ご自身の知識^{グノーシス}の真理を 109 頁 (1行目) 極めて明瞭なものとするためであり、そして、あらゆるものの中から自らのものを受け取るべく、私において地の王たちや世の有力者たちに対峙するためである。

「このようにして、かの教えの者たちのうちの誰一人として我々がどこへ行ったか気づかない状況の中で、私は既に前進を遂げていた。我々は歩き回り、ついに渡ってクテシフォンの [町] にまで至った。(18行目) 海が満潮で私が先に進まなかった時、洗礼者たちの一人が私がそこにとどまっているのを目にした。そして実際、パッティキオスをあとに残した時、私は 110 頁 (1行目) 自分がどこへ行くか彼に言うておらず、その結果パッティキオスは私のゆえに悲しみと嘆きによって捕えられ、周囲の諸々の集会を訪ねて回り、私を見つけず、その結果彼は泣いて嘆き悲しみ、洗礼者たちが慰めのために [彼の] かたわらにいた。私を見たかの者が彼らのところに着き、彼らが悲しみの中にいるのを目にして彼らに向かって言った、『あなたがたは何ゆえに悲しんでいるのか』。彼らは彼に言った、「マニカイオスのゆえに。というのも、彼は出て行って、我々は彼がどこに行ったか知らないからだ。誰かが彼を……しや 111 頁 (1行目) しないかと我々は恐れている』。彼は彼らに向かって言った、『町々へと入る橋の上を渡っていて、私は彼を見た』。パッティ

¹⁰ KOENEN & RÖMER (1988), p.77 のドイツ語対訳はこの「彼」を、すぐ後の文章との関連から「父」と解釈している。

キオスは聞くと喜び、私のところにやって来るべくクテシフォンへと出て行った。（9行目）

「彼がそこに着いた時、彼は私を見つけず、出て行って再び尋ねた。そしてやって来て町の外で、ナセールと呼ばれる一つの村で、聖徒たちの集会の中で私を見つけた。（17行目）パッティキオスは私を見て直ちにかたわらに立ち、接吻して抱擁し、私の前で跪拝した。彼は泣きながら私に言った、『112頁（1行目）……お前が失われてもう二度と私の目に留まることがないだろうと思って私は嘆き悲しんでいた。私は言っていた、「誰を呼ぼうか。そして誰が私に従うだろうか。或いは誰を私は自分の目の前で見るだろうか。そして誰に私は自分のうめきを語ろうか。或いは私は誰に自分の心の秘密を伝えようか。（12行目）というのも、私はお前を、私のこの老齢において、すべてのもので管理者として持つことを希望していたのだから。というのも、お前以上に誰に信頼を置くことが私にできようか。私はお前が私と一緒にいないであろうことをわかっている。神がお前を滅ぼさないよう、……私は神に願った。……お前の……113頁（1行目）悲痛な……お前の友愛〔或いは、お前に対する友愛〕に従って、記憶のうめき〔知恵の書11：12〕が私の心に植えつけられるだろう。（5行目）そしてひょっとすると、お前ゆえの私のうめきの中で、私は世を去るだろう』。

「その時、我が主は彼に向かって言った、『泣くな、悲しむな、私について心配するな。というのも、あなた自身は一緒にいるだろうから。また、私を通して豊かな恵みがあなたにあるだろう。そしてあなたが今日までに成し遂げたこのことは、光の父の意志に基づいて起こったのだ¹¹……114頁（1行目）……他の……たまさか何事も啓示されない、なぜなら、彼らによって読まれているようには、彼らは成し遂げていないから』。（6行目）

（以下次回）

¹¹ このあたり、具体的には113頁18行目から114頁2行目にかけて、KOENEN & RÖMER (1988), p. 80の註にかなり長大な本文復元が記されているが、その復元が長大でありつまり多分に推測が含まれていること（かつ、当の復元が校訂本文の中に掲載されていないこと）に鑑み、ここでは訳出しないこととした。